

教科	音楽科	学年	2年	標準授業時間数	35時間(週1時間)
----	-----	----	----	---------	------------

目 標	教科目標	<p>(1) 『学び合い』を軸にした活動展開を通じて、音楽することの喜びを体感し、音や音楽への興味関心を培う共に、音楽によって生活を彩り豊かなものにしようとする態度を育む。</p> <p>(2) 音楽表現の豊かさや美しさを感じ、基礎的な表現の技能を身につけ創造的に表現する能力及び意欲を培う。</p> <p>(3) 多様な音楽に触れ、興味・関心を広げつつ幅広く鑑賞する能力を育む。</p>
	具体目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> 授業で扱う内容について、学習目標を理解し、興味関心を持って取り組める。 基本的な演奏技能(ベーシック)を理解し、正しい発声法を身につけ、音楽の表現活動に活かすことができる。 演奏(歌唱・器楽演奏)に際して、アーテュキレーションを工夫し、内在する劇性を感じながら、曲想にあった表現を試みる。 日本や世界の諸民族の音楽並びに総合芸術の多様な世界に関心を持ち、その背景となる文化を理解し、作品を鑑賞しようとする。

評 価 点	観	音楽への関心・意欲・態度	25%	音や音楽への興味・関心を持っている。 授業道具を忘れない。
	点	音楽的な感受や表現の工夫	25%	音色、リズム、旋律、和声がもたらす揺れや劇的効果を理解し、ダイナミクスなどを工夫した表現ができる。
		表現の技能	25%	豊かな表現に必要な基礎的な技能を身につけ、創造的に表現できる。
	価	鑑賞の能力	25%	楽曲の背景となる文化・歴史などと関わらせて鑑賞できる。
材 料		授業態度・忘れ物・実技テスト・鑑賞ノート・プリント・定期テスト		
方 法		各評価材料を観点別に基準に従って評価する。 それぞれの結果を総合的に判断する。		

学 習 方 法 の 進 め 方	使用教材	教科書 中学生の音楽2-3上(教育芸術社) 中学生の器楽(教育芸術社)		
	学習形態	教室では、一斉授業の形で進める。 合唱並びに器楽などのアンサンブルでは、生徒相互の『学び合い』を主軸に据え、パート又はセクション毎の活動を展開する。		
	学校	<ul style="list-style-type: none"> 一年次に習得した歌唱ベーシックを活かし、より音域の広い歌唱表現を目指す。 範奏・範唱にしっかり耳を傾け(鑑賞)、曲想や作品の劇性を充分に感受し(音楽の感受)、作者や音楽上の意図をしっかり踏まえた上で(分析)、豊かな表現を目指す。 表現技能の向上を目し、意欲的に取り組む気持ちを忘れず反復練習に勤しむ。 黒板に書かれたことはノートにまとめ、後の学習内容整理に役立てる。 鑑賞教材では自分の感じたことを表現しつつ、音楽的素養と知識の深化を図る。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> その日の学習内容をきちんと整理しておく。 歌唱教材は日常より歌詞を覚えるように心がけておく。 自らの愛好する音楽を、家庭でも聴く習慣を持ち、音楽感受の力と幅を日頃から養うようにする 			

年間授業計画

月	学 習 の 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
4	*音楽の楽しみ 夢の世界を 翼をください ラヴース・コンチェルト 夏の日の贈り物	3	・歌詞の意味や曲想に関心を持ち、意欲的に歌うことができる。
5	*アルトリコーダーの響き アルトリコーダー lesson1~4 (「アエローリ」 「メヌエット」他) *パイプオルガンの響き 小フーガト短調	3	・アルトリコーダーの基礎的な指使いができる ・J. S. Bachの生涯と音楽を通じてバロック音楽を理解する。
6	*オーケストラの響き 交響曲第5番『運命』 交響曲第9番『合唱』 L.V.Beethovenの生涯と音楽	3	・オーケストラの響きを感じ取る。作曲者や、曲の背景となる文化、歴史に関心を持つ。
7	*合唱の喜び 混声三部合唱曲「春に」 各クラスの合唱曲	3	・歌唱ベーシックを活かした歌唱表現ができる。 ・曲の劇性を踏まえ、ダイナミクスに留意し表現を工夫する。 ・パートの役割と曲のバランスを工夫する。
9	*日本の歌 (詩と旋律) 浜辺の歌 アルトリコーダー「ふるさと」 荒城の月 (各クラスの合唱曲)	4	・日本歌曲の言葉や旋律の美しさを感じ取り、表現できるようにする。 ・アルトリコーダーの音色の美しさを味わい曲の特徴を生かした表現を工夫する。
10	*世界の愛唱歌 (速度と強弱) サンタルチア イタリアの文化と音楽 (各クラスの合唱曲)	4	・イタリアに於ける声楽文化の発達について歴史的認識を深める。 ・曲の丁寧なアーティキュレーションを施し、ニュアンスを工夫した歌唱を行うことができる。
11	*総合芸術を味わおう 『アイダ』 総合芸術の種類と形態 文楽・歌舞伎	3	・総合芸術についての理解を深め、現代に於ける総合芸術の諸形態を、鑑賞を通じて鳥瞰する。 ・日本の音楽や芸術に関心をもつ。 ・文楽、歌舞伎の特徴や時代背景を知る。
12	*いろいろな音楽 日本の民謡 世界の民族音楽	3	・日本の民謡を、世界の様々な民族音楽と比較対照させつつ、それぞれの音楽の特徴を感じ取る。
1	*合唱の喜び 「時の旅人」	3	・合唱の響きの美しさを味わいながら歌唱表現をする。
2	卒業式の歌 『君が代』 『校歌』 『旅立ちの日に』	3	・詩の意味を感じながら気持ちを込めて歌う。
3	*いろいろな音楽 いろいろなポピュラー音楽	3	
合 計 時 数		35	